

今号の主な内容

【特集】国際交流事業

- 第9回 ゆふいん～アジアふれあい交流子ども使節団
「日韓交流の旅」韓国・ソウル・水原市訪問日記 1
- ゆふいんtopic
CABINのおふたりに緊急インタビュー! 3
- ゆふいん元気!
ゆふいんにある2つの鳥レース 4
- ゆふいん財団掲示板 4

[発行日] 2010年9月9日
[発行] 公益財団法人人材育成ゆふいん財団
[発行人] 溝口薫平
[編集責任者] 霜野圭一
[編集] 人材育成ゆふいん財団企画委員会
住所/湯布院町川上2863
TEL/85-4748 FAX/85-4759
E-mail : info@yufuin-zaidan.jp
H.P : http://www.yufuin-zaidan.jp

【特集】国際交流事業

元気に帰国しました!!

第9回 ゆふいん～アジアふれあい交流子ども使節団

「日韓交流の旅」韓国・ソウル・水原市訪問日記 2010年8月2日(月)～4日(水)

第9回ふれあい交流使節団が8月2日から3日間の日程で韓国のソウル・水原市を訪問し、無事に帰国しました。今回の訪問では水原市の清明中学校との交流会を行ってきました。今号ではその交流会の訪問日記をクローズアップして特集します。※全日程の訪問日記や写真等については、財団ホームページにて公開しております。ぜひ、ご覧下さい。 **カチッ!** **検索** **ゆふいん財団**

韓国に来てから2日目。今日はいよいよ交流会。バスに乗り込み、いざ水原市へ出発です。バスの中でもリーダーと副リーダーを中心にリハーサルを繰り返します。ゆふいん財団としても今回が念願の学校訪問。これまでの第7回、第8回の使節団で交流の糸口を少しずつ積み上げたことによって、今回の機会を得ました。次第に使節団全体に緊張感が高まっていきます。

到着しました! 清明中学校です。校門をぬけると、グラウンドが広がり、赤レンガの校舎が見えます。向かいには清明高校も建っています。そして、関係者と初対面。いざ校舎の中へ、交流会場まで進みます。

「はじめまして、ジョンテボンです。」



ようこそ、清明中学校へ。今回の交流会を担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。」とても流暢な日本語です。ジョンテボン先生は清明中学校の日本語の教師の方です。

最初に学校案内をしていただきました。日本と同じで夏休み期間中ということもあり、教室はどこも静かでしたが、何名かの生徒がボランティアで教室の掃除に来ていました。廊下を歩きつつ、日ごろ授業が行われている教室を見ることができます。

図書館へ移動。検索用のパソコンも設置されています。図書館司書の方に話題作や人気の本を紹介していただきました。「1Q84」を紹介され、知っている子どもたちも多く、お互いの共通点が見つかりました。

交流会場に戻り、今度は自己紹介タイム。最初に湯布院側が元気良く、一人ずつ自己紹介をしていきます。勉強会でしっかりとあいさつと名前、年齢を韓国語で話せるように練習してきました。発音も良く、清明中学校の子どもたちにもよく伝わったようです。



続いて、清明中学校の子どもたちの自己紹介です。ジョンテボン先生の指導成果が伝わります。しっかりとした日本語の発音での自己紹介でした。

今度は湯布院のまちの紹介です。由布岳や由布院盆地、冬の由布院、湯平・塚原・由布院の温泉、辻馬車、人力車、金鱗湖、そして観光客について写真パネルを使いながら韓国語と日本語で説明をしていきます。それから湯布院中学校の校庭や校舎、体育館の紹介。そして、ボランティア活動として取り組む、ペットボトルのキャップ集め。集めたキャップをワクチンに代えて、途上国への援助を行う活動、年間に多くキャップを集めた学生に対して表彰する湯布院中学校の話を紹介すると、称賛の拍手が沸き起こりました。

Story 02

そしてみんなで家庭科室へ移動。すると、父兄の方々がおもてなしの手作りお菓子を用意してくれていました。それらを食べながらしばらく会話を楽しみます。すると「ワー!!」と歓声があがります。湯布院中学校3年の種木奏音、川合心音、山本弓恵のグループは、女の子同士、アイドルグループや芸能人の話題で、すぐに共通点が見つかった様です。深くお話をする時間がなかったので残念ですが、^{チョンミョン}清明中学校の父兄の方々には本当に感謝したいです。「カムサハムニダ!! (感謝)」。

さて、交流はどんどん進んでいきます。音楽室へ移動。湯布院側から「大地讃頌 (だいちさんしょう)」の合唱です。湯布院中学校3年の種木奏音のピアノに合わせて、人数が少ないにもかかわらず、何とか混声合唱をやり遂げてくれました。

続いて、^{チョンミョン}清明中学校の生徒からはピ

アノ演奏、クラリネット演奏をしていただきました。演奏してくれた生徒はかつて日本に在住した経験を持ち、日本語がとても上手な子どもでした。質の高い演奏で、文化・芸術的な面での英才教育を受けている雰囲気を感じました。そしてエレキギターの演奏。次の生徒もとても日本語が上手でびっくりしました。ギターでアリランを演奏してくれました。何より驚いたのが自分のギター演奏している姿を映像に記録し、自分の携帯電話の中に常に保持していることでした。携帯を操作していた彼に質問すると、自分をアピールするためのそうした映像をどんどん見せてくれる。そんな最先端な一面も見せてくれました。

何とも微笑ましかったのは、^{チョンミョン}清明中学校の女性陣による太鼓演奏でした。6人がリズムに合わせて体を揺らしながら演奏をしています。太鼓は普段使っているイスを土台に。中には大きなペットボトル製の手づくり太鼓もあり

ました。そして伴奏は自ら用意したりズミカルでポップな曲。とにかく、圧倒されました。



今回は、湯布院側からのおもてなし。茶道を習っている大分豊府中学校3年の霜野優希がお茶をたててくれました。それを湯布院中学校1年の杉谷涼が丁寧に、慎重に^{チョンミョン}清明中学校の生徒たちのところまで届けます。「おいしい!!」の感想。おそらく初めて見る茶道。会場全体が自然と静かになり、落ち着いた雰囲気になりました。



校舎内でのプログラムがすべて終わり、記念品の贈呈です。湯布院のまちの紹介をしたパネルを贈呈しました。そのお返しとして、先ほどの手作りの韓国のお菓子を頂きました。ありがとうございます!!

それから校舎の外に出ます。みんなが一緒になって運動をします。サッカーの日韓戦です。まずは男女混合チームに分かれて引率者や先生も混ざります。大人も子どもも無邪気に動き回ります。それから女子対決。続いて男子対決。体を動かせば、すぐに仲良くなります。スポーツには言葉の壁は存在しません。みんな汗びっしょり。そしてみんな笑顔。とても清々しい時間でした。

次にみんなでバス移動。一緒に食事会です。昼食でいただいた料理はサム

ゲタンというスタミナ料理。鶏肉の中にご飯や高麗人参、にんにくなどを詰め込んだ料理です。鶏肉の中に詰め込んであり、それがスープの中に入っています。だから食べ方を教えてもらわないといけません。そういったところからコミュニケーションがまた再開します。

この食事会の間は大人たちは一步距離をおいて、子ども達同士の会話の様子を見守りました。より深く、お互いのことを聞いたりします。英語で何とか詳しく話したり、通訳の方にフォローしてもらいながら、お互い伝えたいことを何とか話しています。

中には、連絡先やメールアドレスを交換する子どもたちも見受けられました。そして写真を撮り合います。最後

に、日田杉製のうちわにメッセージを書き込んだプレゼントを渡しました。お返しに^{チョンミョン}清明中学校の生徒からもプレゼントをいただきました。

「チャルモッグスミダ (ごちそうさまでした)」食事会も終了の時間となりました。全員で記念撮影をします。とっても良い笑顔です。再びバスで^{チョンミョン}清明中学校まで移動して、いよいよお別れの時です。

抱き合い、握手を交わす子どもたち。そして涙と笑顔。やはり別れは寂しいです。聞こえた言葉は「また会おう」「ありがとう」。お互いにとても貴重でかけがえのない出会い、経験となり、これぞ「交流」という形ができあがりました。「カムサハムニダ (ありがとう) ^{チョンミョン}清明中学校」。



Story 03

ゆふいん TOPIC 由布院駅アートホールでCABIN展覧会「ボンボとヤージュ」が開催されています！そんなCABINのおふたりに緊急インタビュー！

昨年は“自分の夢を叶えるためにはどう努力をしたら良いか？”というテーマで実験的にミニ勉強会を開催しました。ゆふいん財団としても「夢の実現」は大きなテーマとなっています。今回は、夢へ向かって新しい船出を

する、美術ユニット「CABIN」のお二人と対談する機会を得ました。今月は由布院駅アートホールで展覧会も開催中。ぜひ、ご覧下さい。今後の活躍が期待される現役大分大学の学生へのインタビューです。（聞き手・事務局大澤）

絵や芸術との出会い・きっかけは？

阿部

「亀の絵」子どもの頃、幼なじみのツカサクんの亀の絵がとても評判になった。お母さんがとてもほめたので悔しかった。負けず嫌いだっただ自分は、亀の絵を描きまくった。「どうやって描いていくかを覚えている」。



阿部健太郎
(あべけんたろう)
1989年大分県(湯布院町)生まれ
2007年大分大学教育福祉科学部入学
(在学中)

吉岡

「幼稚園のアルバムづくり」幼稚園の卒園式へ向けて、一人一枚ずつアルバムをつくる課題があった。友達がたくさんいる絵を描いたら、それがとても評判になった。友達から「私も描いてほしい」というオファーが殺到。友達の方まで描いてあげた。

その後は？

吉岡

高校からは、友達からは何となく「絵を描くキャラ」として受け入れられていました。先生の似顔絵などをよく描き、絵を描くことで自分の存在意義を示してきた。美術的センスはさげなくPR。「美術が本業」の素振りは見せなかった。美術部はおとなしいイメージだった。スポーツで目立ち、美術は地味に存在感をみせ



ていた。

阿部

サッカー部の方が人気があったので小学校、中学校、高校とサッカーを続けました。そんな学生時代は、特別に美術はやっていなかった。

吉岡

小学校はバレーボール、中学校はテニス。友達につられるように剣道、スイミング、書道もやっていった。習い事はたくさんやった。運動がやはり得意で、スポーツテストは1位だった。

お二人

かっこいいのはやはり運動部。そうした中、選択授業は継続して美術を選択し、さりげなく賞をとっていた。美術は大学から本格的にスタート。一般に公開されることで一気にカミングアウトした。

大学に入ってからはどうだった？

吉岡

美術科は4人しかいない。大学1年生は何もやっていなかった。とにかくダンスをしていた。「そろそろまじめにやらないとな」と思い、美術棟に行った。

阿部

知人とつながりながら何となく美術棟にいた。



吉岡紗希
(よしおかさき)
1988年大分県(大分市)生まれ
2007年大分大学教育福祉科学部入学
(在学中)

吉岡

分岐点は大学2年生の時。とある駅での展覧会だった。4人展で油絵の人、写真の人、そしてアクリル・イラストレーションが私たち二人だった。お互いに、お互いの絵を「うまい」と感じた瞬間だった。周りの反響や評判もそれぞれあって、お互いがそれを意識し、刺激を受けることにつながっていった。

負けず嫌いの自分が復活、そして制作活動に没頭。

阿部

片方がほめられると「悔しい」、「もっとうまくになりたい」と思い、子どもの頃にも感じていたような創作意欲が高まった。

吉岡

音楽を聴きながら制作活動。ノリノリになってきたら、踊りながら制作を続けた。そんな日々が続いた。

阿部

ノリノリも良いけど、徹夜続きでたまにイライラすることも(笑)それでも刺激し合い、けんかもしながらがんばってきた。

吉岡

制作する上でのテーマは、「作品で人に何かを伝えること！」

Dream&Freedom

周囲の大学の友達も、就職活動をしたり、次のステップアップのために取り組み始めている。そんな同期にも「夢を描け！自分の道を切り開け！」とエールを送りたい。そういった気持ちがあるのかもしれない。

(次のページに続きます。)



表現者としての「悩み」…。作品を通して伝えなければいけないという意識。そういった縛りとは関係なく、作品を通して自由に伝えるという意識。両方の意識が存在し、葛藤している。作品を通して、絵を通して、見た人や子どもたちをワクワクさせたい。

自分が教育実習で感じたことは「美術に対して苦手意識を持っている人が多い」ということ。あまり先入観を持たずに、どんな美術や絵にトライしてほしい。そんな子ども達をワクワクさせるような作品をつくる事が理想かな。。。

今回の作品では海賊船が登場。そして出航！新たな冒険の船出をイメージしている。海賊船のストーリーもあって、26人の冒険の船出を描いている。何となく卒業後に新たな船出をする自分達と照らしあわせているところがある。自分達にとってもこれから的人生の新しい船出。その見送りの場が今回のアートホールでの展覧会という位置づけをしている。

CABINさんに会えるアートフォーラム
9月20日(月) 19:00~
由布院駅アートホール(参加無料)



海賊は一般的にアウトロー的な存在。それでも頑張り屋で命をかけてがんばっている。子ども達も海賊といえば何となく「冒険」というイメージがあり、その冒険の楽しさを感じてもらえると良い。作品を見て、どんどんワクワク感を感じてもらいたい。

自分達の船出という思いはすごくある。「自分達が情熱を持って取り組んでいること、目指していることを認めてほしい！」という思いがある。その思いは子どもの頃から変わらない。当然家族にも、そして多くの人も認めてもらいたいという気持ち強くあります。

最後に、これからの子どもたちに伝えたいこと

阿部

- ★好きなものを好きと言えるようにね
- ★何事も続けようね
- ★思いやりを持とうね

吉岡

- ★思いやりを持とう
そしてイイ世界にしてね
- ★一番好きな事は何か探そう
- ★健康で長生きをして人生を楽しむ。



CABIN EXHIBITION
BONNOVO & YAGE
IN THE YUFUJIN
STATION
2010. 8. 31 - 9. 24

CABIN展覧会「ボンボとヤージュ」
2010年8月31日(火)→9月24日(金)
9:00-19:00(最終日は16:00まで)

ゆふいん
元気!

新町通り・土曜夜市の合鴨レース

VS

★ゆふいんにある2つの鳥レース★

湯平温泉・大ソーメン流しのアヒルちゃんレース



夏の風物詩、新町通り・土曜夜市の合鴨レース。お気に入りの鴨を見つけ、チケットを購入。勝ったら賞品がもらえる簡単ルール。この鴨たちは日頃、田んぼの雑草、害虫駆除等で活躍中です。



湯平温泉の恒例行事・大ソーメン流し大会。石畳は人！人！人！今年初企画の『アヒルちゃんレース』。ゴム製のアヒルの人形を100個、花合野川に一気に流し、ゴール地点までの速さを競います。先着10位内の方には賞品を進呈しています。



INFORMATION

人材育成ゆふいん財団 掲示板

(1) 一般寄附金としてご寄付をいただきました。

・土屋誠司さま(乙丸)より(香典返しとして)

100,000円

温かいご厚意ありがとうございました。公益目的事業の推進、充実に有意義に活用させていただきます。

(2) 国際交流事業・第9回ふれあい交流使節団への寄附金

・お饞別として(5名より)

63,000円

温かいご厚意ありがとうございました。現地での交流費等に、有意義に活用させていただきました。

編集後記

第9回ふれあい交流使節団が無事に帰国しました。引率として子どもたちの交流を見守りました。「見守り」は「我慢」の連続です。助けたいと思う場面でも我慢して、自立させようとする。生まれた子どもを崖から落として、自力で登って上げさせようとするライオンのお話が有名です。私も最近父親になりました！とにかく、がんばるぞっ！(事務局・大澤直彦)

みらいしんきんは人材育成ゆふいん財団の市民の実践活動への情報・ネットワーク事業を応援します



みらい信用金庫

URL <http://www.oitamirai.co.jp/>